

新年のご挨拶



NPO法人 山口県腎友会
理事長(兼事務局長) 谷村 律弘

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年は当会活動へのご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は山口県腎友会が昭和50(1975)年に発足してから50年という節目の年になります。現在、私たちがお金の心配をしなくても高品質な透析治療がうけられるのは、先人の命を懸けた努力の賜物に他なりません。

本来ならば、50年にわたる当会活動を顕彰するためのセレモニーを開催すべきですが、この数年間、コロナ禍で患者会活動が大きな制限を受けたため、会員数の大幅な減少にみまわれ、会員の高齢化もすすみ、役員が動けなくなった時点で患者会が解散する状況も出始め、事務局員を雇用することもできなくなったというのが当会の現状であり、セレモニーを開催する体力がありません。

しかし、セレモニーだけが顕彰の方法ではありません。会報誌『じんゆうだより』や親睦・交流会など、さまざまな機会をとらえて会員一人ひとりの経験や思いを交流することで、山口県腎友会が歩んできた歴史を顕彰し、今後の展望を示すことができるのだと考えています。

一昨年5月にコロナが5類になり、親睦旅行を再開する患者会も増えはじめています。昨年の臓器移植普及推進キャンペーンは精力的に展開することができましたし、今年はもっと発展させようとの声があがっています。

昨年9月末で事務局長の森三拓さんと事務局員の西みゆきさんに退職していただくなくてはなくなり、森さんの後継が理事長の私、西さんの後継が中村順子さんということで、昨年10月1日から患者自身による事務局運営がはじまったばかりです。

二人とも慣れないことばかりで不手際もあり、みなさまにご迷惑をおかけして申し訳ございません。毎日が不安と緊張と勉強の連続です。しかし、理事・監事や会員のみなさんが、「一人で抱え込まないで。みんなで仕事を分担しよう」「出来ることが